

2023年度認定こども園くわな園学校関係者評価シート

教育目標	自然に親しみながら創造的に過ごすことのできる人間を育てる
重点目標	園児の活動に対する意欲を高めるために心情を受け止め、その延長線上の態度を育成する
重点課題	園児の創造性を高める活動の設定にあたり、各教員のさらなる創造性を発揮し得る職場環境を作る 園児の創造性を高めるとき、家庭を支える家族の理解と協力の在り方を精査し、進める。特に保護者のエゴと需要の違いを見極める 園児送迎時の安全を確保する一環として、スクールバスのより安全な運行をはかるための方策を練り、実施する

凡例
4=◎
3=○
2=△
1=×
0=××

		ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
心情	保育者	指示ではなく理解を寄せる	3.4	・まず、子どもの思いを聞き入れ共感し、言葉掛けをする。	先生方が子ども達の話に耳を傾けているのは伝わってきている。
		子どもの言葉にうなづく	4.0	・子どもの目線の高さに合わせ、目を見て丁寧に受け答えをする。	
		子どもの言葉を聞き逃さない	4.0	・周囲にいる子どもの声だけでなく、後方、離れた場所の子どもへの意識を欠かさないようにする。	

		ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
意欲	保育者	適切な教材などの環境を準備する	3.0	・年齢や発達を学び、子ども達に適切な環境を考え提供していく。	絵カードなどで季節の花や虫の名前を覚えてきて、家で話すこともいる。ぜひ続けて頂きたい。子供の言葉をよく聞き、どんどんたさんの話を引き出してほしい。
		言葉を拾って広げる	4.0	・子どものつぶやきや発言から興味関心、又、心で思っているが言えないことをくみ取り、個々、クラスでの活動・対応につなげる。	
		成果を喜ぶ	4.0	・子どもと共に喜び、自己肯定感を育む。	

		ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
態度	保育者	動機の高まりを受け止める	4.0	・子どもと同じ気持ちで活動に取り組み、一緒に楽しむことでやる気や行動力を認めていく。	過剰に手助けなどする必要はないと保護者達も考えている。出来ないことはやり方をその都度伝えながら、見守って頂きたい。先生方はとてもよく子ども達を見てくれていることは、伝わってくる。
		集中力の行方を見定め助長する	4.0	・時間や場所など、十分に組み組める環境を保障していく。	
		任せる	4.0	・必要以上に介入することなく、状況を見極め、子どもからのアクション(ヘルプ)などの予測をしながら見守る。	

教員自己評価

	ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
I 保育の 計画性	園の教育理念や教育方針を理解している	3.4	・ミーティングでは様々な意見交換を職員間で行い、理解を深めていく。又、実践へと繋げていくよう具体例を出し話し合う。	努力していることはすぐ伝わっている。引き続きお願いしたい。
	園の教育方針に共感している			
	園の方針、園長の考えについて園長や教職員と話し合っている			
	園のねらいにそった保育をしている			
	園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる			
	幼稚園教育要領を理解していると思う	2.8	・職員間の話し合いの中で、年齢に沿った教育のあり方を日々考え、実践、振り返りを試みている。	変化に対応していると感じる。
	幼稚園教育要領について、園長や教職員と話し合っている			
	幼稚園教育要領について、幼児の姿や環境の構成、教師のかかわりなど具体的な事例を想起できる			
	園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神をふまえて園の教育理念・教育方針にしたがい編成している	3.3	・話し合う時間を決まった日時で設け、保育計画を全学年で考えている。	月ごとにしっかり計画を立ててもらっている。
	園の教育課程を理解していると思う			
	園の教育課程をもとに、保育の計画をたてている			
	園の教育課程は園長が中心となり、教職員と協力しあって編成している			
	園の教育課程は社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直しを行っている			
	園の方針を指導計画や保育に生かそうとしている	3.2	・方針を指導計画等に生かそうとしている。 ・子どもの育ちをよくみて、今の状況、関心事などを、保育に取り入れ、その時の幼児の興味を引く計画になっている。	指導計画をしっかり練ってもらっていると感じる。ただ、行事が減っている傾向なのが、残念に思う。
	指導計画は教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している			
	指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活の様子、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している			
	長期の指導計画はマンネリ化しないよう、常に見直しをおこない、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成している			
	短期の指導計画は幼児の実態に合わせて、自由に変更できるような順応性のあるものになっている			
	指導計画は総合的な活動ができるように考慮し作成している			
	幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している			
安全で清潔感のある環境構成をしている	・安全で清潔感のある環境になっている。 ・その年齢や月齢に合った環境を構成し、危険やトラブルの面にも配慮した環境にしている。自ら活動を生み出していけるよう工夫している。 ・季節ごとに壁面を考え、季節を感じられるようにした。 ・目線に合わせて危険がないか確認している。			
指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている				
幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている				
幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をしている				
遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量を配慮して用意している				

	ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
5	楽しい雰囲気の中で安定して遊びこめる環境構成をしている	3.3		環境を整えてもらっているのを感じる。掃除を積極的にされているのを見かけるが、先生方の負担を考えると、一部でもいいので掃除担当の業者などを配置することも、考えても良いのではないかと。その分の時間を、迎えの車の案内をしてスムーズにいくようにしてほしい。また、子ども達と関わる時間として、費やすことを希望する。
	幼児の動線、目線に配慮した環境構成をしている			
	幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成している			
	幼児の発想を柔軟に取り入れて保育室の装飾や展示を考えている			
	教師の願いや意図をもって環境構成をしている			
	幼児の発達や生活を見通して環境構成をしている			
	季節の変化に応じた環境構成をしている			
	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている			
6	自分の保育と計画の評価・反省を、行うようにしている	3.3	・計画にそって意見交換を行い、次への計画に生かしていけるようにしている。	保護者には見えないが、それぞれクラスごとに、活動や向き合い方が違うと公開保育の時に感じる。それを他の先生方と共有し、互いに高めあう機会は大切ではないかと考える。
	評価・反省は観点を定めて行っている			
	自分の保育と計画の評価・反省について次の保育と計画に生かせるように行っている			
	自分の保育を他の教師たちにも見てもらい、それをもとに検討している			
	互いに保育をみせあって、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている			
1	朝の登園時は特に視診を大切に幼児の体調が悪くないかを確認している	3.9	・熱や様子の変化に気を付けている。 ・遊んでいる姿がすぐ見ることが出来る場所と一緒に遊んだり見守ったりしている。 ・何かあった場合は共有し、報告している。 ・室内の水回りはいつも清潔であるようにしている。	問題なく、けがや体調についてみてもらっているとと思う。ただ登園時に先生に鼻水や咳などの症状があることを伝えても、伝わっていないことがある。
	体調が悪そうなどときは静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行い適宜、家庭へ連絡している			
	けがや事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉かけを行っている			
	万一事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に診てもらうなど適切な処置を行っている			
	園内に危険な箇所がないかどうか、危険な遊び方はないか、活動が年齢や能力に対して危険でないかななどを常に観察している			
	危険が予測される場合は、幼児達と一緒に見たり、考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにしている			
	クラスの中の水道付近の清掃や、換気、採光、室温などに気を付けている			
トイレの清掃やトイレの使い方について配慮し、幼児にも正しい使い方を具体的に示している				
2	一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている	3.5	・遊びの様子を観察したり、常に遊びや行動を把握し、一人になることがないように他のスタッフとも共有して行うよう心がけている。 ・個々の発達をふまえ少しずつ成長が見られるように接していくようにしている。 ・子どもの様子や変化を保護者に伝え、情報交換している。	よく子どもの姿を見てもらっているのが伝わる。担任以外の先生も関わってもらっていることは、ありがたいと感じている。
	幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている			
	幼児同士のかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても推察するようにしている			
	見えないところで活動している幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することが出来る			
	一人の幼児をじっくりとみながら、周囲にも目を配ることが出来る			
	幼児のこれまでの姿、今の姿から、これからの活動のある程度予想することが出来る			
個々の幼児の発達の姿や課題について見直しを持って理解できる				

	ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
II 保育のあり方、幼児への対応	<p>幼児同士のかかわりの姿をとらえることができる</p> <p>幼児たちがいま興味や関心を持っていることがわかる</p> <p>幼児を自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている</p> <p>幼児の理解のために保護者と話し合うことがある</p> <p>幼児の姿を、家庭での生活をふまえて理解している</p> <p>幼児の姿を多面的にとらえることができる</p>			
	<p>3</p> <p>幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線にたつてものを見つめたりしている</p> <p>幼児の気持ちに共感しながら、一緒によく遊んでいる</p> <p>一人ひとりの幼児の思いを把握して寄り添いながらかかわっている</p> <p>幼児からのアイデアをくみとって遊びを深めている</p> <p>「先生のようにやってみたい」と幼児が思うような、モデルとしての姿を心がけている</p> <p>教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている</p> <p>幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしないようにしている</p> <p>善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなっている</p> <p>幼児一人ひとりのありのままの姿を受け入れようとしている</p> <p>幼児とのスキンシップをとるようにしている</p> <p>幼児一人ひとりのよさを認めるようにしている</p> <p>幼児の話をよく聞くようにしている</p> <p>幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供している</p> <p>幼児の年齢に応じたわかりやすく聞き取りやすい語りかけ方をしている</p> <p>幼児が行き詰っている時に、適切な援助をしている</p> <p>幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている</p> <p>幼児をほめたり、励ましたり、めあてを持たせるような言葉かけをしている</p> <p>禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている</p> <p>“一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考えながらかかわっている</p> <p>幼児同士のトラブルに対し、両者の話を聞いている</p> <p>幼児の年齢や発達に応じたかかわり方をしている</p> <p>幼児の個性や性格、特徴に応じたかかわり方をしている</p> <p>幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしていない</p> <p>幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮してかかわっている</p>	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の成長に合わせて援助の仕方を共有し、スキンシップを取ったり声をかけたり、関わり方を工夫している。 生活の中で一対一の関わりを大切にし、丁寧に、ゆっくりと関わり、褒めたり励ましたりすることの大切さを理解しながら行っている。 保育の中での禁止言葉、行動をせかしてしまうことがあり、気を付けていくようにする。 	先生方皆が、子ども達と真剣に向き合っている。
	<p>クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている</p> <p>クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換している</p>			

	ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
4	<p>幼児のことにについて常に保育者同僚で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している</p> <p>教職員全員が、すべての幼児についてある程度理解しているようさまざまな工夫をしている</p> <p>指導上、配慮を必要とする幼児については、園の教職員全体で特によく話し合い、共通理解をもって、対応するようにしている</p> <p>「認知」が得意な子どもを有効に導くことができる</p> <p>「記憶」が得意な子どもを有効に導くことができる</p> <p>「集中思考」が得意な子どもを有効に導くことができる</p> <p>「拡散思考」が得意な子どもを有効に導くことができる</p> <p>「評価」が得意な子どもを有効に導くことができる</p> <p>他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うようさまざまな工夫をしている</p> <p>他のクラスや異年齢の幼児たちとかかわれるよう、さまざまな保育の形態を取り入れている</p>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに壁面を考え、季節を感じられるようにした。 ・ミーティングや他の保育者同士話し合う場が多くもてるように、工夫しながら進めていけるようにしていきたい。 ・預かり保育で交流できるようにしている。 ・定期的なミーティングをし、子どもの様子を伝えている。 	<p>様々なことに取り組ませてもらっている。たくさん先生方に関わらせてもらっていることが成長にもつながっているの、評価したい。</p>
1	<p>幼稚園教諭として専門知識や技能を身に付けている</p> <p>より高度な専門知識や技能を身に付けようと研修している</p> <p>幼児の性格や個性を把握するよう努めている</p> <p>保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことを分かりやすく話すことができ、保護者との信頼関係をつくることに努めている</p> <p>仕事の手順をよく考え、能率よく行っている</p> <p>幼児が考え、感じていることがある程度予測できる</p> <p>保育時間外でも保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけている</p> <p>幼稚園には自分自身のプライベートな生活を持ち込んでいない</p> <p>幼児や保護者との対応には、公平さを欠かないようにする</p> <p>朝と帰りのあいさつは明るく親しみを込めてしている</p> <p>感謝の気持ちを言葉などで表わしている</p> <p>園の消耗品や教材は節約して使い、後で使う人が使いやすいようにする</p> <p>服装、髪型、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけている</p> <p>保育にふさわしい服装を身に付けている</p> <p>自らの健康に、十分に気を配っている</p> <p>爪の管理をしている</p> <p>子ども(担任外も)と保護者の顔や名前が一致する</p> <p>担任する、子どもの性格を把握している</p> <p>職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている</p> <p>幼稚園の電話やコピー、紙や教材などを私用に使っていない</p> <p>園の重要書類を無許可で持ち出していない</p> <p>教材、教具の管理、点検に気を配っている</p> <p>クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している</p>	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者とは出来る限り、会って話し、信頼関係が出来るように心がけている。 ・園の中でも外でも明るく挨拶するようにする。 ・園の決まりにそって物を管理し、提出物は保育教諭同士で声をかけあっている。 	<p>担任以外の先生方もお迎えの担当で、どの先生とも関わりを持つことが出来るようにされており、安心してどの先生にも、連絡等することが出来た。時間外は、時々目が行き届いていないような時がある。</p>

	ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
Ⅲ 教師としての 資質や能力、 良識、適正	現金は管理せず、事務所に預けている			
	締切りのある仕事や提出物は締切日を守っている			
	同僚や園の批判を軽はずみにしていない			
	教職員全員でひとつのチームであることを意識している	3.8		保護者から見て、全員で情報を共有し、協力し合っているように見える。
	学年をまとめようと努力している			
	「この先生はこの程度だから」と同僚の評価を固定していない			
	会議や打ち合わせは時間を厳守している			
	他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる			
	自分の意見と異なる結果となっても議論の上、決定したことは、気持ちよく協力し、実行している			
	会議のときは自分の意見や質問を前もって考えている			
	子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をしている			
	2 係の仕事は確実にこなしている			
	教職員と親しくつき合い、偏った人間関係を作っていない			
	上司の指示、命令には責任を持って実行している			
	上司や先輩に対しては敬語を用いて話している			
教職員のプライバシーに関することを他へ漏らしていない				
園のことを、みだりに、他へ話してしていない				
主任、もしくは上司は、自分の利益より全体の利益を優先していると思える				
主任、もしくは上司を尊敬できる				
同僚の問いかけに無視することなく、答えている				
自分の思いや考えを他人に理解しやすいように伝える努力をしている				
3 幼児と会話をしたり遊んだりするのが好きである	4.3		先生方も一緒に子どもの成長を喜び、共有してくれている。	
幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる				
幼児と一緒に苦しんだり考えたりすることができる				
幼児と一緒に生活を創りだすことが楽しい				
特に配慮を要する幼児が望ましい方向へと変容していく過程に喜びを感じる				
4 幼児や教育に関する情報をたえずとらえようとしている	3.8		興味を無理に保育につなげようとせず、先生の感性を大事にして、自然や社会の出来事、命の尊さについて教育してほしい。	
幼稚園や幼児のことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある				
幼稚園の仕事の他に、多様な趣味を持っている				
自然に対する感性をもち、命の尊さを感じている				
地域のことに関心がある				
クラスや子どもの様子、自分の考え方、保育のポイントなどをクラスだよりで知らせている				
欠席の場合は電話連絡をしている				
個々の子どもの様子は直接話をしたり、電話、連絡帳などを使って伝えている				

	ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
IV 保護者への対応	1 保育参観や保護者会を開いて子どもについて、保育について、家庭でのあり方について共通理解を得よう努めている 場合によっては個別に保育の様子や子どもの様子を見てもらったり、保護者と話し合ったりする いつでも個別懇談が行える体制であることを保護者に伝えている 自分の考えをきちんと話し、保護者の話を心を開いてよく聞いている 「認知」が得意な子どもについて保護者に説明できる 「記憶」が得意な子どもについて保護者に説明できる 「集中思考」が得意な子どもについて保護者に説明できる 「拡散思考」が得意な子どもについて保護者に説明できる 「評価」が得意な子どもについて保護者に説明できる 必要に応じて、ビデオ、写真、イラストなどさまざまな方法で分かりやすく伝える工夫をしている	3.2	・連絡帳や月のおたよりで、園での様子を文と写真を使い伝えている。 ・園の方針や日頃から大切にしている保育・教育を保護者にもわかりやすいよう具体的に伝えるようにしている。	出来てなかったり、目立つ様なことがあれば、伝えてくれているが、先生方からして、一般的、平均的であれば、こちらから聞かないと、特に伝わってこない。認知・記憶等については教えてもらった覚えはない。
	2 保護者からのさまざまな訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視しないで、園長や主任、学年主任等に報告や相談をしている 保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの教育的な意義付けをはっきりとさせてからにしている 保護者への支援が可能な部分については園長の指導の下、教職員の合意の上で行なっている 保護者の協力が必要な場合は、園長と協議し具体的な協力のあり方について、保護者と話し合っている	3.7	・保護者の意見はスタッフで共有し、しっかり検討した上で保護者に返答している。	公開保育の後等に保護者の意見を聞く場があるとよい。
	3 保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針にしたがっている 個々の子どもの情報は口外していない 保護者、家庭の情報は口外していない	4.1	・園で得た情報は外部に持ち出していない。	無理に礼儀を統一せず、その先生なりの自然な対応が良い。
	4 「食べれない」などの「ら」抜き言葉を使っていない 親しくなったからといっても、友達同士のような話し方をしていない 電話は相手が見えないために誤解が生じやすい。手短かに、簡潔に要領よく、対話することを心がけている 保護者の国籍、思想、宗教により、また子どもの性差、障害、個性差等によって区別、差別していない 長期の欠席や入院等の場合は見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている 園のすべての保護者に対し、親しみを込めたあいさつや会話を心がけている 保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	3.8	・保護者との信頼関係をより強くするべく、日頃より相手の思いを大切にしながら丁寧に関わっている。	特に言葉遣いや話し方で気になったことはない。
	5 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に連絡、報告、相談している クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処している	3.9	・クレームに対しての共通理解を持ち、スタッフで共有し、必ず報告している。	対応してもらっている。
	V 地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている 地域の自然や主な施設の場所、交通機関、主な行事等について、ある程度理解している	-	・地域の自然や機関を把握し、子どもたちにも身近なものだと感じられるようにしている。 ・散歩などで会ったときには、明るく挨拶するように心がけている。	立地的に交流は難しいと思うが、定期的に散歩はしていたので続けてほしい。

	ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
地域の自然や社会とのかかわり	1 地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している	3.5		
	地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をしている			
	2 小学校の教育内容について理解しようとしている 卒園した子どもの情報を得るように努めている 地域の小学校の行事や公開授業に関心をもっている	2.9		
3 地域開放や子育て支援について具体的な形や内容を理解している 地域開放や子育て支援のあり方について、教職員全体で話し合っている	2.6	・情報を回覧している。	良い。	
研修と研究	1 研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している 研修会や研究会に参加する場合は事前にその内容を確認したり、自分なりの考えをまとめている 研修会や研究会では活発に発言している 専門書や専門雑誌を読んでいる 研究保育を参観するときは自分なりの課題と視点をもって観ている 自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行っている 自分の保育のあり方や悩みについて、他の教師や主任、園長と話し合っている 他園の見学をしたり、公開保育を観てみたりする機会をいつも探している	2.8	・保育をした後、振り返りスタッフで話し合っている。 ・自分の教育・保育の知識や技術の向上に努めている。	Facebook等のSNSで勉強会をよく開催しているのを見る。継続をお願いしたい。
	2 子どものみとりと内面理解について研修・研究を行なっている 指導計画の作成や記録の取り方、考察のあり方に関する研修・研究を行なっている 環境構成・再構成のあり方について研修・研究を行なっている 指導とかわりのあり方について研修・研究を行なっている 自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行なっている 確立された幼児観・保育観について客観的に見つめるための研修・研究を行なっている 保育者同士の協力・連携のあり方について研修・研究を行なっている 自らの得意分野を確立するための研修・研究を行なっている 良識・常識・義務・マナーなどに関する研修・研究を行なっている 保護者への対応のあり方について研修・研究を行なっている	2.7	・見通しを持ちながら、職員間でも話し合うなど自分で気づかない部分にも気づき、全体のスキルアップを目指している。 ・週に一回話し合いの時間を作り、そのときに必要なことについて相談している。	新任の先生や、繁忙な先生へのサポートの先生、手助けの出来る先生の強化を保護者は求めている。自身が学んだ経験値を、新任の先生や他の先生に共有する時間をもう少しとるようにはどうか。
	3 園の遊具や教材についてその特徴や基本的な使い方の研究をしている 園の遊具や教材についてさまざまな利用方法について研究している 園の遊具や教材について子どもはどんな使い方をするのかの研究をしている 園の遊具や教材についてどのような使い方が危険かの研究をしている	3.0	・実践しながら一つ一つ確認し発展させている。	積み木や量り等の教材の研究と共に、使用頻度をもう少し増やして、有効活用してほしい。
	園舎の構造(平屋、二階建て、三階建て)や保育室・遊戯室の位置・大きさなどが持つ特質が、幼児にとってどのような教育的な意味を持つかについて理解するための研究をしている			

	ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
4	園庭や農耕栽培地、砂場、通路、池、かくれ場所などの位置、広さなどが幼児にとってどのような教育的な意味を持つか理解し、保育に生かす研究をしている	2.5	・周囲の環境を最大限に活かせるよう環境の変化があるたびに見直している。	先生同士での園庭の植物や虫等を研究しているので、それを子どもにフィードバックしてほしい。よく子どもが虫やオタマジャクシを捕まえてくるが、それからの飼育方法や命の大切さ等を子どもに教えてほしい。研究だけでなく、それを子どもにフィードバックしてほしい。
	園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、保育に生かす研究をしている			
	園内の環境を、いくつかのまとまりや関連性を持たせて保育の計画・実践に生かす研究をしている			
5	子どもを取り巻くさまざまな状況が変化してきていることについて学習し、何が問題であるか、背景・原因・実態はどうであるかについて理解したり、学習したりする研究をしている	2.8	・アレルギーや障害のある幼児の対応では、自分でも調べたりすることはあるが、研修などに行けていないため、深く知らないことが多い。	Facebook等でアレルギー（エビペンの使い方）等、研修しているのを知っている。他の幼稚園とも比較してもらい、よい取り組みのことも力を入れてもらいたい。給食の対応は素晴らしい。
	さまざまな変化の中で、幼児にとって何が問題であるか、幼稚園としてはそれに対してどのような教育を行なわなければならないかについて考えたり学習したりしている			
	クレームの対応についての勉強会をしている			
	アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について研究している			
	障害のある幼児に対処する保育のあり方を学習している			
	預かり保育や子育て支援などのあり方・考え方について、学習している			
	チーム保育について、その意義やあり方について研修・研究している			
6	趣味・人とのかかわりなど、うるおいのある生活を心がけている	3.4	・休日は趣味の時間や、友人との会話を楽しめるよう、毎日の仕事内容を効率よく行うよう心がけている。	仕事を家に持ち込まず、プライベートは大切にしてほしい。
	保育の専門知識や技能のほかに趣味や読書、ボランティア活動等にも関心がある			
	尊敬する人の話はぜひ聞きたいと思っている			
	いろいろな人と意見を交換し合いたいと思っている			

行事を通して

	ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
始業式	保育者 進級の喜びや不安を受け止め、信頼関係を築く一歩であることを意識し一緒に遊び、一人ひとりの行動を見守りながら援助を行う。	3.8	・「ピカピカの名札だね」「お兄さんお姉さんだね」など声を掛けて、進級と一緒に喜んだ。また、一人ひとり名前を呼んだり、触れたり、一緒に遊びを楽しんだりして温かい雰囲気作りをした。	
	幼児 新しい友達や先生と共に過ごすことの喜びを味わう。先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。	3.8	・壁面の作品やクラスの友達の表を話題にして関心を向けられるようにした。靴箱、ロッカー、トイレなど一緒に確認をして覚えられるようにした。	
	保護者 新しいクラス、先生を知り、信頼関係の基盤作りをしていく。	3.8	・年間計画を配布して読んで頂けるようにした。挨拶の際に、目標や展望をしっかりと伝えた。	

	ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
--	-----	-----	-------	---------

		ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
避難訓練 1学期	保育者	慌てず、安全を第一に子どもを避難させることができる。	3.5	・常に全体把握に努め、人数確認の元で安全、迅速に子どもたちを誘導することが出来た。 ・乳母車に乗せたり、おんぶして外へ避難した。	・南海トラフ地震などの懸念されているので、引取り訓練やより詳細なマニュアルを設定 提示をしてほしい。
	幼児	・危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が得わかり、安全に気を付けてこうどうする。 ・怖がらずに避難することができる。 ・口を閉じ保育者の話をよく聞いて、行動することができる。 ・怖がらず階段を降りることが出来る。	2.8	・保育者が一緒にやって見せ、ダンゴムシやトンネル等遊びのように参加できるようにした。 ・落ち着いた話を聞くことのできるような環境を作りおさない、走らないなどのルールを伝えた。	

		ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
公開保育 6月	保育者	幼児の主体的な活動を促すために保育者は多様な関わりが必要であることを踏まえ、幼児の情緒の安定や発達に必要な豊かな経験が得られるよう、活動の場面に応じて適切な援助を行う。	3.3	導入などで、落ち葉を観察し、秋の自然現象に親しんだ。日めくりカレンダーのような語りかけを毎日行い、子どもたちの期待を膨らませた。	・子どもが先生に代わり絵本を読んだり体操の見本をしたり いつもと違った試みが見られてよかったです。 ・流れがあり、やりたいことが保護者にも伝わりとても良かったです。 ・園が楽しいことが伝わって良かったです。
	幼児	園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。	3.3	・友人と関わる時間、保護者と楽しむ時間を見ることができた。 ・当日を心待ちにできるように毎日の声掛けを行い、子ども達の期待を膨らませた。	
	保護者	日々子ども達に関心のある出来事や様子、活動内容をあらゆる手段を考え、伝え、安心して園に子ども達を任せられるという環境づくりをする。	3.4	・口頭では伝わらない子ども同士の関わりや園での生活を目で見てもらうことができた。孫半面集団行動の難しい部分を目にしてそのことに関しての相談、質問がなく、つなげていくことが出来なかった。	

		ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
プール遊び	保育者	・安全管理を十分行いながら、水遊びの楽しさを知らせる。		・子供たちが安全にプールに入ることが出来るように、大島さんに緊急時の対応について職員会で話をしてもらい、全員で把握した。(監視役の運転手さんも) ・人数確認、準備体操・約束事を徹底し子供たちと共に楽しんだ。	・安全に注意しながら楽しめていると思います。
	幼児			・各学年のねらいに沿って、遊びの内容を考えより楽しくなるように進めた。 ・水が怖い子供も回数を重ねるごとに、怖さが薄れ挑戦する子供の姿が増えた。 ・「楽しく」一人ひとりが次のステップへ進めるよう援助した。	

		ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
運動会	保育者	1人ひとりの頑張りを認め、楽しく参加できるようにする	3.6	拍手やモチベーションを高められる言葉かけをすることで楽しい雰囲気の中で練習、本番が進められるように心がけた。	
	幼児	楽しく参加し、やりきる達成感を味わう	3.7	1人ひとりに「頑張っているね」「素敵だったよ」等、会話を楽しみ、笑顔がたくさん見られた。	
	保護者	行事を通し成長を実感する	3.6	練習の時から苦戦した様子などを伝え、本番には「頑張ったね」と言葉をかけて子どもたちの頑張りを感じてもらえるようにした。	

		ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
--	--	-----	-----	-------	---------

ねらい		達成度	課題・対応	評価委員の考察
公開保育 11月	保育者	3.3	導入などで、落ち葉を観察し、秋の自然現象に親しんだ。日めくりカレンダーのような語りかけを毎日行い、子どもたちの期待を膨らませた。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが先生に代わり絵本を読んだり体操の見本をしたり いつもと違った試みが見られてよかったです。(愛組) 流れがあり、やりたいことが保護者にも伝わりとても良かったです。(年少、年中) 園が楽しいことが伝わって良かったです。
	幼児	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 友人と関わる時間、保護者と楽しむ時間を見せることができた。 当日を心待ちにできるように毎日の声掛けを行い、子ども達の期待を膨らませた。 	
	保護者	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 口頭では伝わらない子ども同士の関わりや園での生活を目で見てもらうことができた。孫半面集団行動の難しい部分を目にしてもそのことについての相談、質問がなく、つなげていくことが出来なかった。 	

ねらい		達成度	課題・対応	評価委員の考察
避難訓練 2学期	保育者	3.6	慌てず、安全を第一に子どもを避難させることが出来る。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に行ってもらい、ありがたい。 災害時、津波がきたときの避難方法や保護者への子どもの引き渡し方法を定めたマニュアルがほしい。
	幼児	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する。 怖がらずに避難することが出来る。 口を閉じ保育者の話をよく聞いて、行動することが出来る。 消防車を見学することができる 	

ねらい		達成度	課題・対応	評価委員の考察
クリスマス会	保育者	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちにクリスマスの夢を持たせる。 異年齢も関わりを深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> かわいい給食にプレゼントに子どもも喜んでい
	幼児	4.0	<ul style="list-style-type: none"> 実物のサンタクロースやハンドベルなどじっと集中して見ていて、表情も喜びや楽しさがあふれていた。 ランチルームに大きく飾ることで楽しみにできた。 	

ねらい		達成度	課題・対応	評価委員の考察
ゆうぎかい	保育者	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 衣装に手が加えてあることで、あたたかく、気持ち良かった。 とり、花組も練習を見ることで、一緒にする気持ちが高まった。 曲、衣装などみんなで考え、実践できるよう導入した。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマがあってわかりやすくよかった。 あらかじめ、内容、取り組みのおたよりがあったのでよかった。
	幼児	3.9	<ul style="list-style-type: none"> 先生から褒められ、喜びを分かち合うことで、やる気に繋がり、みんなで一緒にできたという感情も出ていた。 練習以外でも曲を流し、遊びの中でゆうぎを行えるようにした。 	
	保育者	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 練習の様子、終えてからの様子を伝え、当日までの姿を感じられるようにした。 席の位置によって、子どもを肉眼で見ることが出来ない人がいた。 	

ねらい		達成度	課題・対応	評価委員の考察
保育者	大切な時間を共に過ごし温かく送り出す。小学校生活へ興味、関心がもてるよう助長する。		<ul style="list-style-type: none"> 笑顔で温かく送り出した。「おめでとうや」「小学校へいってらっしゃい」と喜びの気持ちを伝えた。 	

		ねらい	達成度	課題・対応	評価委員の考察
卒園式	幼児	長 限られた時間の中で、一つひとつの体験を大切に、共に楽しみ共感し合う。在 様々な関わりを通して年長児の卒園することを知り、親しみや畏敬の念を持つ。		<ul style="list-style-type: none"> ・年長:最後の大切な時を日常クラスでしている遊びや春を迎えたことを知る散歩などを通して共有共感し楽しんだ。 ・在園児:たくさん関わってもらったことを思い出し感謝の気持ちを伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真があると卒園式で写真を撮る事なくともじっくり見られるのでは。 ・当日 東海フォトデザインシステムのムービーがあるのか知りたい。写真があるのか知りたい。
	保護者	子どもと共に成長の区切りを知り卒園を喜ぶ。地域、家庭での新しい生活のリズムへ配慮する。		<ul style="list-style-type: none"> ・子供の成長を共に喜び、たくさん話すようにした。 	